

2022年度 第2回 POC 技術委員会議 議事録（案）

日 時：2022年10月8日（土）10：00～11：30
場 所：神戸国際会議場 5階（503号室）+ Zoom

【参加者】（敬称略）

会議室：藤巻慎一、メ谷直人、奥田優子、菊池春人、坂本秀生、櫛引健一、
山田修、三好雅士、竹澤理子、後藤慎一、服部聡、山崎家春、
乗船政幸、小林隆、薬師寺小百合、岡尚人、後藤泰輔

Zoom：久保田芽里、木下敬一郎、中村政敏、福岡京子、木下陽介、繁正志、
木下真紀、竹田良子、青山朋子、フマウイド・マリジョイ、
岸本貴志、加藤了大、奥村淳、吉尾仁美、古田仁志、樋渡亮二、鈴木
貴、

宮澤愛、植田大輔、古賀政之、山中威知郎、桑克彦

欠席：太田麻衣子、江原佳史、中井剛史、滝野寿、竹浦久司、

議事録：岡尚人

【配布資料】

1. 2022年度 第2回 POC 技術委員会議題

【報告事項】

1. 委員会名簿と委員交代：竹澤事務局

- ・ 企業委員交代：
 - 栄研化学株式会社 小林隆委員から後藤泰輔委員へ交代（マーケティング推進室マーケティング一部一課）（理事会承認済）
 - 富士レビオ株式会社 吉尾仁美委員より山中威知郎委員へ交代、本交代は理事会未承認であるため、承認を得てから交代とする
- ・ 新委員：
 - 小林隆（株式会社アイビー：但し個人学会員として）就任
- ・ 名簿最新版をメールにて共有予定

2. 幹事委員交代：竹澤事務局

- ・ 小林委員から樋渡委員（ノバ・バイオメディカル株式会社）へ交代

3. 過去に開催されたセミナー報告について

1) 第 84 回 Web 版 POC セミナー：後藤事務局

開催日時：2022 年 7 月 27 日（水）19:00～20:30

参加人数：70 名

付与単位：2 単位（総論 1 単位、測定技術論 1 単位）

コメント：

2) 第 85 回 Web 版 POC セミナー：後藤事務局

開催日時：2022 年 8 月 4 日（木）19:00～20:30

参加人数：76 名

付与単位：記録・通信 1 単位

コメント：通信に特化した

3) 第 82 回 POC セミナー（別紙）：木下真紀委員

日本医療検査科学会第 54 回大会（神戸国際会議場）における技術セミナーとして企業 8 社との共催にて開催（座学・実習）

テーマ：「POCT におけるパニック値報告を考える」

開催日時：2022 年 10 月 7 日 13:20～16:40

参加人数：149 名（内聴講のみ 62 名）

付与単位：3 単位（総論 1 単位 運用技術論 1 単位、記録通信 1 単位）

コメント：久しぶりの実習付き現地開催であり、
オンデマンド配信を予定しており、その際はパスワードを入力し、修了書をダウンロード（2 単位）

4. 今後の POC セミナー：各担当

1) 第 13 回更新セミナー：後藤事務局

開催日時：2022 年 10 月 8 日（土）13:00～15:00

テーマ：「新型コロナウイルス感染症検査の総括
～現場での取り組み、検査の重要性～」

イントロダクション（30分）

「鳥取県の感染フェーズに合わせた新型コロナウイルス検査の対応」

鳥取赤十字病院 中央検査課 木下敬一郎委員（認定 POCC）

講演 1（20分）

「Smart Gene を用いた新型コロナウイルス感染症検査の現状と課題」

山陰労災病院 中央検査部 高橋すずか先生

講演 2（20分）

「抗原定性検査の実際とインシデントへの対応・対策」

藤田医科大学病院 臨床検査部 微生物遺伝子検査室 和久田光毅先生

講演 3 (20分)

「新型コロナウイルス抗原定性検査の添付文書の読み方～感度・特異度とは～」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 薬師寺小百合委員 (認定 POCC)

2) 第 83 回 POC セミナー (別紙) : 竹澤事務局

第 69 回日本臨床検査医学会学術集会 (栃木県) シンポジウムとして開催

テーマ : 「地域医療と POCT」

開催日時 : 2022 年 11 月 18 日 (金) 14:20～16:20

付与単位 : 2 単位 (総論 1 単位、運用技術論 1 単位)

詳細 : 添付資料参照

5. 認定 POC コーディネーターについて : 事務局後藤

認定 POCC 取得状況

2021 年度取得者 : 7 名 全取得者 : 177 名

2022 年度受験者 : 7 名 試験日時 : 10 月 9 日 15:30～16:30

【検討事項】

1. POC ガイドライン第 5 版発刊について : 奥田委員長

- ・ ガイドライン編集作業部会を立ち上げ、部会長は奥田委員長が就任し、監修を菊池副委員長が務める
- ・ 作業部会委員として、後藤事務局、木下 (真) 委員、三好委員、小林委員、岡事務局補佐が参画し、その他、立候補者をメールにて参画希望者を募る
- ・ 発刊時期 : 2023 年 10 月発刊を目標として進める
- ・ 作業部会が中心となり、各委員は分担業務を実施する
- ・ 本改訂に関しては、POC 更新セミナーのテーマとして取り上げる

【その他、協議確認事項】

1. 委員会が年 2 回と少なく、理事会承認が必要な委員交代等の委員会承認が適時対応できない。今後は臨時メール審議を行い、委員会での報告とする
2. 認定試験に関して、次年度よりスケジュールを明確化し委員会メンバーに開示する
3. 委員会内部の組織図を作成することにより明確化し、委員会内部資料として開示する (理事会承認必要なし)

4. 第 86 回 POC セミナー担当者の立候補を募る

【次回委員会】

日本臨床検査自動化学会春季セミナー：2023 年 4 月 15 日（土）～16 日（日）
東北大学（宮城県）：大会長 藤巻理事

第 82 回 POC セミナー（日本医療検査科学会第 54 回大会）

| | | | |
|--------|--|--------------|-------------------------|
| テーマ | 「POCT におけるパニック値報告を考える」 | | |
| 概要 | <p>2021 年 12 月に日本臨床検査医学会より『臨床検査「パニック値」運用に関する提言書』が発表された。これによるとパニック値報告は、医療安全対策の一環としてチームで一体となって運用することで、安心して安全な医療の提供や医療の質の担保に寄与でき、チーム医療実践の証になるとされている。しかし、現状はパニック値の設定や報告後の体制などが統一されていない。そこで今回のセミナーでは、今一度この提言書の理解を深めるため、我々が今後パニック値をどのように運用すべきであるか、そのためには何を整備し、準備しなければならないかを考える機会にしたい。また、パニック値への対応が診療に直結する救急分野での対応から、診療に活かすための報告とは何か、報告する側と受ける側のあり方を考える。さらに、一般機器に比べ POCT 機器ではまだまだシステム化が進んでいないのが現状ではあるが、「パニック値の記録を確実に残す」という面から、あらためて POCT 機器のシステム運用の利点について考える。</p> <p>3 年ぶりに対面で開催する実習では、実際にパニック値として迅速な結果報告が求められる様々な分野の POCT 対応機器・試薬について、システム連携を踏まえて体験していただき、自施設の運用を考える上で活用できる情報の提供と知識習得を目指す。</p> | | |
| 実施概要 | | | |
| 開催形式 | 日本医療検査科学会第 54 回大会における技術セミナーとして企業 8 社との共催にて開催（座学・実習） | | |
| 開催日時 | 2022 年 10 月 7 日（金）13:20～16:40 現地開催予定 | | |
| 開催場所 | 神戸国際会議場 | | |
| 取得単位 | 3 単位（総論 1 単位 運用技術論 1 単位、記録通信 1 単位） | | |
| 募集人数 | 100 名 | | |
| 参加料 | 学会登録が必要（学会参加費に含まれる） | | |
| セミナー担当 | 木下 真紀 | 天理よろづ相談所病院 | ／JCLS POC 技術委員会委員 |
| | 木下 陽介 | 山陰労災病院 | ／JCLS POC 技術委員会委員 |
| | 乗船 政幸 | 岡山医療センター | ／JCLS POC 技術委員会委員 |
| | 福岡 京子 | りんくう総合医療センター | ／JCLS POC 技術委員会委員 |
| | 小林 隆 | 栄研化学株式会社 | ／JCLS POC 技術委員会委員 |
| | 岡 尚人 | ラジオメーター株式会社 | ／JCLS POC 技術委員会委員事務局長補佐 |
| | 後藤 慎一 | 春日井市民病院 | ／JCLS POC 技術委員会委員事務局長 |

| プログラム | |
|-------|--|
| 講演 | <p style="text-align: right;">司会：後藤慎一（POC 技術委員会事務局） 乗船政幸（POC 技術委員会委員）</p> <p>講演 1 （13:25～14:10） 「臨床検査『パニック値』運用に関する日本臨床検査医学会からの提言」 岩手医科大学医学部臨床検査医学講座 教授 諏訪部 章 先生</p> <p style="text-align: right;">司会：木下陽介（POC 技術委員会委員） 福岡京子（POC 技術委員会委員）</p> <p>講演 2 （14:10～14:30） 「病院における POCT とパニック値の運用について」 近畿大学病院 中央臨床検査部 津田 喜裕 先生</p> <p>講演 3 （14:30～14:40） 「POCT 検査結果のシステム連携について」 株式会社ミズホメディー 内川 高重 先生</p> |
| 実習 | <p>POCT 対応機器・試薬を使用した実習 （14:50～16:30） 司会：木下真紀（POC 技術委員会委員） 木下陽介（POC 技術委員会委員） 福岡京子（POC 技術委員会委員） 血液ガス・血糖・生化学・凝固・感染症など 8 社と共催予定</p> |
| 経費 | 非会員講師料 2 万円、交通費 2380 円 |

第 83 回 POC セミナー（第 69 回日本臨床検査医学会学術集会シンポジウム）

| | |
|--------|---|
| テーマ | 「地域医療と POC T」 |
| 概要 | <p>団塊の世代が 75 歳を迎え、医療・介護需要が最大となることが予想される 2025 年を目前に控えているが、我が国では少子高齢化が加速し、この増加する医療と介護の需要に対応する為には、医療の機能に合わせ、限られたリソースを効果的かつ効率的に配置し、急性期から回復期、慢性期まで患者が状態に見合った病床で、状態にふさわしい、より良質な医療サービスを受けられる体制を作ることが必須となる。これを踏まえ、平成 27 年度より国は都道府県に対し地域の医療需要の将来推計や報告された情報等を活用して、二次医療圏等ごとの各医療機能の将来の必要量を含め、その地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進するための地域医療構想の策定を求めている。</p> <p>この地域医療構想の実現に向けては、特に慢性期の医療ニーズに対応する医療・介護サービスの確保が重要であるが、総合的な診療、認知症対策、予防医療、地域連携、地域活動などの場面において、かかりつけ医の役割が非常に重要になってくると共に、高齢化に伴い通院が困難になる患者の割合の増加が予想され、在宅医療へのニーズも高まっていくものと思われる。そこで今回のセミナーでは、かかりつけ医機能や在宅医療の場においてどのように POC T が活用されているかを理解し、今後更に地域医療構想の中でどのように POC T を活用することによって、臨床検査が貢献することができるかを考える機会にしたい。</p> <p>今後自施設が地域医療構想の中で他施設と連携していく上で、必要となる情報の提供と知識習得を目指す。</p> |
| 実施概要 | |
| 開催形式 | 第 69 回日本臨床検査医学会学術集会におけるシンポジウムとして開催(座学) |
| 開催日時 | 2022 年 11 月 18 日 (金) 14:20～16:20 (120 分) |
| 開催場所 | 栃木県総合文化センター or 宇都宮東武ホテルグランデ(現地開催予定) |
| 取得単位 | 2 単位 (総論 1 単位 運用技術論 1 単位) |
| 募集人数 | 100 名 (事前登録制は検討中) |
| 参加料 | 学会登録が必要 (学会参加費に含まれる) |
| セミナー担当 | 竹澤 理子 社会福祉法人 三井記念病院/JCLS POC 技術委員会委員 事務局 小林 隆 栄研化学株式会社 /JCLS POC 技術委員会幹事 薬師寺小百合 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社/JCLS POC 技術委員会幹事 |

| | |
|-------|---|
| | 岡 尚人 ラジオメーター株式会社 /JCLS POC 技術委員会委員事務局補佐 後藤 慎一 春日井市民病院 /JCLS POC 技術委員会委員事務局 |
| プログラム | |
| 講 演 | <p style="text-align: right;">司会：菊池 春人 (POC 技術委員会副委員長) 坂本 秀生 (POC 技術委員会幹事)</p> <p>講演 1 (14:20 ~ 15:20) : 60 分 「クリニックにおける臨床検査の活用」 八潮駅つばめクリニック 院長 三宅 紀子 先生</p> <p>講演 2 (15:20 ~ 15:50) : 30 分 「在宅医療への臨床検査技師の関与 ~栃木県の調査から~」 医療法人社団 宇光会村井クリニック 荒川 正子 先生</p> <p>講演 3 (15:50 ~ 16:20) ; 30 分 「在宅でのポケットエコーによる POCUS 活用の実際」 医療法人社団 七福会 ホリィマームクリニックさいたま 寺内 裕樹 先生</p> |
| 経 費 | なし |